

平成27年度 県立芦屋国際中等教育学校 学校評価シート(年度末評価)

<p>【教育の特徴】 一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する。</p> <p>【学校教育目標】 (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。 (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身に付け、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。 (3) コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p>【学校経営の重点】 (1) 個に応じたきめ細かな支援 ① 自己実現への支援 生徒の滞在国内や出身国等の言語や文化の学習機会を提供するなど、自尊心や自己肯定感をはぐくむとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現を図るための支援を行う。 ② 弾力的な学習支援 少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外での生活で身につけた語学力や教科内容の理解等に応じた学習支援を行う。</p>	<p>③ 主体的な進路形成の支援 自主体験活動の充実を図るとともに、語学に関する資格試験に対応する学習指導を含め、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位として認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出す取組を通して、主体的な進路形成を支援する。</p> <p>(2) 豊かな共生の心を培う教育の推進 ① 心の教育の推進 道徳教育、人権教育、特別支援教育を推進する委員会を定期的に開催するとともに、教育相談・カウンセリングの充実を図りながら、生徒や保護者の悩みを受け止め、学校と保護者が連携して、命を大切にしたい心の教育を推進する。 ② 交流活動の推進 地域の学校や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関と連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。 (3) 開かれた学校づくりの推進 ・ 学校の教育目標や指導計画、生徒の学校での学習内容や生活の状況などを保護者等に積極的に伝え、保護者等からの情報を得られやすい学校・家庭・地域との関係づくりを推進し、お互いに協働と連携を図りながら教育活動を展開する。</p>
--	--

【本年度の重点項目】

	領域	重点目標	中間評価			成果・改善点	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見	
			点	割合	評価点平均(昨年)		点	割合	評価点平均(昨年度末)			
1	情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に知らせることができた。	5	6.9%	2.8(3.2)	<ul style="list-style-type: none"> 生徒には年間、学期、月ごとに予定を知らせ、計画的に準備できるように促している。 保護者に学年通信やメールをとおして情報を発信した。 こちらからの情報の発信はできたが周知徹底とまでは行かず提出書類がなかなか揃わない。 行事や入試関係など直前まで資料が出てこず、場当たり的になっている。 	5	6.0%	3.0(3.2)	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業方法や取り組みなど可視化をどうするかが課題。アンケート結果を数字だけでなく、学年保護者にフィードバックする方向で考えてもらいたい。状況分析などを「見える化」とモチベーションがあがるのでは。 生徒、保護者に対する学校生活全体についてのアンケートでは、学年の特徴が出ているようだ。 授業に対して教科担当者への不満が出ているようだ。実態を把握し、改善につなげてほしい。 授業力、生徒とのコミュニケーションの改善に力をいれたい。 保護者に対するアンケートで、本校で学ばせて良かったという回答が多いのは、うれしいことだ。 	
			4	31.0%			4	39.7%				
			2	60.3%			2	53.4%				
		取り組みに関する説明を十分に行うことができた。	5	1.7%	2.8(2.9)		5	1.7%	2.7(2.9)			C
			4	37.1%			4	32.2%				
			2	57.8%			2	64.3%				
		一方通行ではなくコミュニケーションを図ることができた。	1	3.4%	2.8(3.0)		1	1.7%	2.8(3.1)			C
			5	3.4%			5	4.3%				
			4	37.9%			4	32.8%				
		結果・成果の通知ができた。	2	55.2%	2.8(2.9)		2	61.2%	2.6(2.8)			C
			1	3.4%			1	1.7%				
			5	0.9%			5	2.6%				
2	授業力の向上と学習指導の充実	各授業時(間)の目標を明確に示すことができた。	5	5.9%	2.9(3.2)	<ul style="list-style-type: none"> 各単元の目標をはっきりと示すことができなかったのが改善してきたい。 授業時間が均等になるようにしてほしい。曜日、午前、午後でかなり違う。 授業の最初に学習内容・目標を明確に提示した。 基本的に1テーマを1時間の授業で完結する。 	5	5.9%	3.0(3.4)	B		
			4	38.2%			4	41.2%				
			2	52.9%			2	52.9%				
			1	0.0%			1	0.0%				
		教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業に向けての改善ができた。	5	2.9%	3.0(3.2)		5	5.7%	3.1(3.3)		B	
			4	52.9%			4	45.7%				
			2	35.3%			2	48.6%				
			1	5.9%			1	0.0%				
		前期と後期のつながりを意識した授業ができた。	5	5.9%	2.9(2.9)		5	5.7%	3.1(3.2)		B	
			4	38.2%			4	45.7%				
			2	52.9%			2	48.6%				
			1	0.0%			1	0.0%				
生徒の習熟度・到達度を意識した授業ができた。	5	2.9%	2.7(3.0)	5	8.6%	3.1(3.1)	B					
	4	35.3%		4	42.9%							
	2	55.9%		2	48.6%							
	1	2.9%		1	0.0%							
公開授業・研究授業を行うことができた。	5	0.0%	1.8(1.9)	5	3.4%	2.2(2.3)	C					
	4	8.8%		4	17.2%							
	2	55.9%		2	55.2%							
	1	32.4%		1	24.1%							

【専門部の業務評価】

(1)総務部		
項目	平均	評価
企画・運営	3.4	B
入学者選考等	3.3	B
渉外・PTCA・他校等	3.1	B
広報	3.3	B
国際交流	3.0	B
防災	3.0	B
庶務	3.2	B
データ整理・管理	3.0	B

(2)学習支援部						
教務	項目	平均	評価	進路指導		
					項目	平均
	教育課程等	4.0	A	進路指導	3.2	B
	時間割	4.0	A	体験学習	3.3	B
	学 籍	3.3	B	総合的な学習の時間	2.9	C
	調査・統計	3.0	B	項目	平均	評価
	教科書・教材	3.3	B	図書の選定・紹介	3.0	B
	新入生テスト			図書の貸出	3.3	B
	学習状況調査・授業評価	3.0	B	項目	平均	評価
	全国学力・学習状況調査	3.5	B	日本語指導	3.7	B
	定期考査・データ処理	3.5	B	日本語研究	3.7	B
	三者懇談					

(3)生活支援部							
生徒指導	項目	平均	評価	保健	項目	平均	評価
	生徒指導全般	3.5	B	保健活動	3.0	B	
	生徒会活動	3.7	B	教育環境整備	3.0	B	
	教育相談	3.2	B	項目	平均	評価	
	安全指導	3.8	B	人権教育	2.9	C	
	庶 務	3.0	B	道徳教育	3.0	B	
	式場準備	3.0	B	項目	平均	評価	
	関係機関等との連携	3.2	B	ネットワーク管理	4.7	A	
	部 活 動	3.0	B				
	特 別 指 導	3.0	B				

＜学校評価の改善について＞

平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。

(1) 学校評価の評価項目
 評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。

(2) 部署ごとの取り組み
 担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。

(3) 学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)

(4) 年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。

